

担い手の明確化に向けた 地域での話合いのポイント

(未定稿)

【地域の条件に応じた担い手の明確化の考え方の例】

地域水田農業ビジョンづくりで行う「担い手の明確化」とは、それぞれの地域における将来の水田農業のあり方に係る戦略の一環として、「産地づくりを具体的に担っていく者は誰か」を明らかにし、「その者への農用地の利用集積をどのように図っていくか」について、地域の皆さんの合意を形成する取組です。

自分たちの地域の実態に合った多様な担い手を明確化するとともに、これらの担い手と他の関係者の皆さんが協力して、それぞれの地域で水田農業を維持・発展させる準備として、地域の関係者全員が、地域の将来像とお互いの役割分担を共有できるようにしっかり話し合しましょう。

この資料は、こうした話合いを行う際の参考として、担い手を明確化する際の基本的なポイントをまとめたものです。

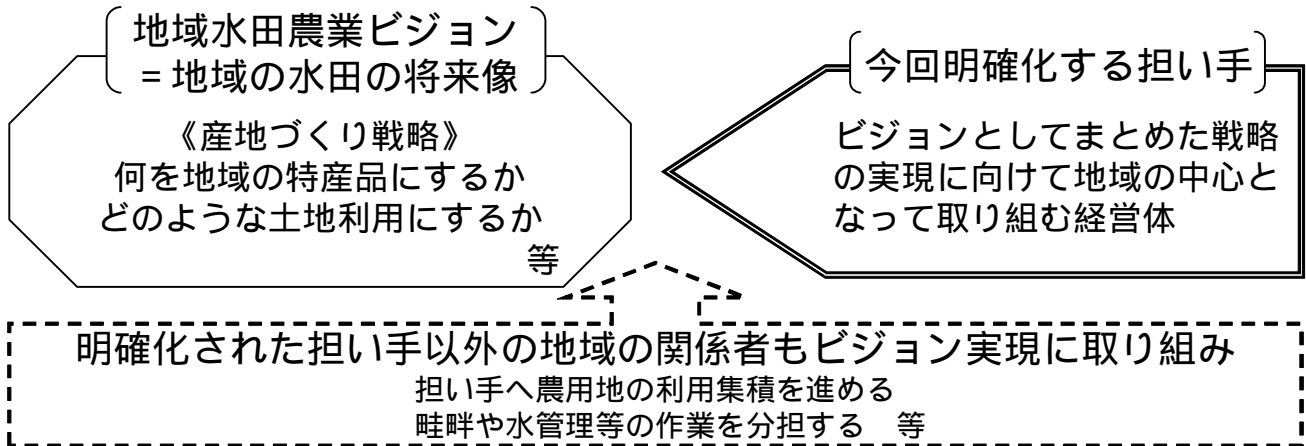
平成16年2月

農林水産省経営局経営政策課

担い手の明確化の考え方

地域水田農業ビジョンにおける「担い手」とは？

皆さんで作る地域水田農業ビジョンの実現に向けて、今後、地域の中心となって取り組んでもらう経営体です。



ビジョンをスムーズに実現するためには、「担い手」と「他の地域の関係者」の役割分担も併せて決めておきましょう。

どんな経営体が「担い手」として考えられますか？

「担い手」となる経営体は、地域の実情により様々です。
将来の皆さんの地域の水田農業の将来像を実現するのにふさわしい経営体をじっくり話し合しましょう。

担い手として考えられる経営体（例）

地域内の個別農家

皆さんの地域には、規模拡大したり作業を請け負ってくれる農家はいませんか？

地域内の法人

もちろん、「担い手」は個人か法人かは問いません。

集落営農組織

法人化していない集落営農組織でも大丈夫です。
今回の取組を契機に新たに作る集落営農組織も担い手とできます。

オペレーター組織

農用地の権利を持たないオペレーター組織であっても担い手とできます。

隣接地域の個別農家 や法人

担い手は地域内の経営体でなくても構いません。
周りの地域にも目を向けましょう。

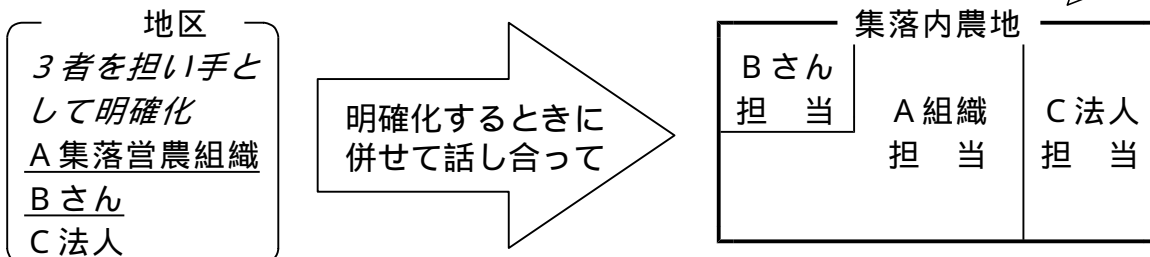
ひとつの地域で、様々な経営体が「担い手」となることもあり得ます。

地域の実情に合わせて、ひとつの地域でいくつもの経営体が同時に担い手となることもあり得ます。

そういう時は、あらかじめ、地域内の農用地をどのように利用していくかなど、担い手同士の役割分担を事前にしっかり調整しておきましょう。

あらかじめ各担い手の
役割分担を決めておけば
トラブルなし！

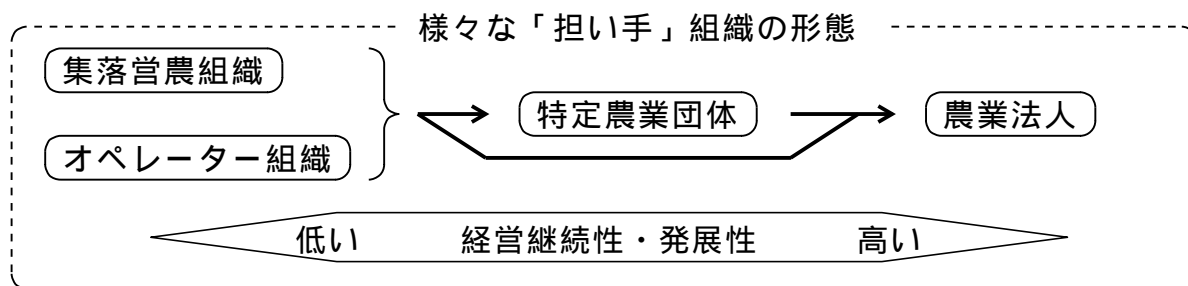
複数の経営体を担い手として明確化するときには...



地域の将来のために、「担い手」の経営を発展させましょう。

地域の水田農業の維持・発展を考えると、「担い手」の経営をより安定・発展した形にすることが大切です。

皆さんが明確化した「担い手」がまだ農業経営改善計画の認定を受けていない場合は、認定農業者として発展してもらえるよう応援しましょう。また、組織経営の場合も、要件を満たすのであれば特定農業団体としたり、法人化することも考えましょう。



きちんと話し合わずに担い手リストを作るのはダメ！

取組を急ぐあまり、既存の担い手の一覧表等を流用するといった安易な対応では、せっかく地域で作った水田農業ビジョンがきちんと実現できず、皆さんの地域の水田農業が守れなくなってしまう。

時間がかかっても、しっかり話し合ひましょう。

また、一旦地域で合意した後で、新たな担い手候補が出てくることもありえます。

このため、一度担い手リストを作成した後も、継続的な話し合いにより明確化された担い手をその都度追加するなど、段階的に担い手リストを更新することが大切です。